



プロメテウス解剖学 コア アトラス

坂井建雄 ● 監訳

市村浩一郎, 澤井 直 ● 訳

21 世紀の解剖学アトラス

評者

中田 隆夫

東医歯大大学院教授・細胞生物学

私事で恐縮であるが、外科医であった父の本棚には父の学生時代の教科書が幾つかあった。当然その内容は古く、私が医学生になって見ると、内容が使えるのは解剖学(マクロ)だけであった。それも日本が貧しい時代の印刷の悪いものであった。私の学生時代、良いアトラスといえば Pernkopf か Sobotta かであった。父に Pernkopf 2 巻を買って貰った。十分使いこなせたとは言えないが、図の精緻さ、美しさは素晴らしく、今も職場の本棚にある。時代の趨勢もあり、これらを超えるようなアトラスは今後作られないだろうと思っていた。実際、学習に便利であったり、安価であったりする良いアトラスは出版されても、唸るような素晴らしいアトラスは見ることがなかった。

プロメテウスの第1巻を見たとき、解剖学のアトラスにこのような進化の方向があったのかと感動した。CG を使っているからであろうか、精緻だが生臭さを感じないドライな図柄、鮮やかだが上品な色合い、洗練されたレイアウト。一見するだけで、著者やブックメーカーの意気込みを感じた。

今回刊行されたコアアトラスは、プロメテウス全3巻の中から図版を精選し、人体の全部位を1巻にまとめるため、新たに編集し直したものである。全体は背部、胸部など7章に分かれ、各章は、骨、筋、臓器、血管、リンパ、神経の順に系統解剖学的、局

所解剖学的な図がそれぞれバランス良く並んでいる。引き出し線と nomina は英語(と日本語訳)で、各図の意図に沿う最小限のものに絞られている。できるだけ多くの図を掲載するためであろうか、総論はカットされている。神経解剖の端折り方も清々しい。美しい解剖図で有名な本書であるが、意外にシェーマや表が多く、知識の整理に役に立つ。また臨床についてのコラムも学生の興味を引くかもしれない。コンピューターを使うと縮尺も自在になるためか、かなり縮小された図も見られるが、1冊に情報を盛り込むためには致し方ないのかもしれない。

プロメテウスはこの時代を代表するアトラスである。それを凝縮したコアアトラスは、1万円を切り、コストパフォーマンスが高い。医学生だけでなく、コメディカルの方々にも勧めたい。合格すれば終わりの受験勉強の参考書と違い、医療にかかわる仕事をする限り、解剖学アトラスは辞書のように長く使える。もちろん、ブレインマシンインターフェースが進んで、解剖学のチップを脳に差し込むだけで済むようになったら本も試験も必要なくなるでしょうが。

●A4変型 頁704 2010年

定価 9,975 円(本体 9,500 円+税 5%)

[ISBN 978-4-260-00746-7] 医学書院刊